

# 九州伝産の旅

★デザイナー編★

vol.1

2025年

## みさこみさこ氏

1980年福岡県北九州市生まれ。主に生活・アートに関わる分野でデザインワークを行うほか、地域とデザインにまつわる様々な活動に携わっている。

主な仕事に無印良品「Open MUJI」ロゴデザイン、三菱地所アルティアム「minä perhonen 1995→」、伝統工芸「山鹿灯籠」とのコラボレーションによるモビール「TouRou」、アロマディフューザー「かぐわし」のプロダクトデザインなど。2019年からは「太宰府天満宮 意匠課」として神社の制作物のデザインや、記録・広報用の写真撮影などを行っている。2020年からプライベートワークによる作品制作・展示活動をスタート。

<https://misaquo.org/>

# グラフィックデザイナー みさこみさこ氏

## 九州の手仕事に寄り添い、やわらかなデザインの力 で暮らしと工芸をつなぐ

福岡を拠点に、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動するみさこみさこさん。暮らしやものづくりに関わる分野を中心に、グラフィックデザインやWeb、書籍、プロダクトなど、幅広いジャンルでデザイン活動を行っています。

「九州伝産の旅」デザイナー編 vol.1 は九州の伝統工芸産地とも多くのコラボレーションを重ねていらっしゃる、みさこさんにお話を伺いました。



みさこみさこさん



みさこさんがデザインを手がけた作品

紙の彫刻『マイケル』

和紙アロマディフューザー『かぐわし』

### Q.デザイナーを志したきっかけを教えてください。

学生時代は北九州高専で電気工学を学び、デザインとは無縁の環境だったのですが、学校の電算機室で自由にインターネットが使えたことから、PCでゲームやイラストを制作するようになったのが原点です。卒業後は北九州市から福岡市に移住し、システムエンジニアとして就職しますが、福岡の街で見かけるおしゃれなフライヤーやレコードジャケットなどに魅了され、「印刷物に関わる仕事もおもしろそう」と感じ、小さな印刷会社に転職しました。印刷会社ではクライアントからの依頼に応じて銀行の社内報や薬局の薬袋、選挙ポスターなども手がけました。その後、編集プロダクションなどを経て、グラフィックデザイナーとして独立しました。Webデザインも写真もほとんど独学で学びました。

## Q. 独立された目的を教えてください。

会社に属していると、その会社の限られたクライアントからの仕事が中心になります。自分自身に求められること、本当にやりたい分野で仕事の依頼を受けたいと思ったのが大きな理由です。また、長時間労働などの働き方も自分に合わないと感じていました。

当時、個人ブログでアートや好きなものなどについて発信していたところ、そこから繋がりが広がったり仕事を依頼してくれる方も出てきて、応援してくれる人たちの存在が独立を後押ししてくれました。

## Q. 伝統工芸の分野とのコラボ実績について教えてください。

最初に関わったのは、会社員時代に制作した波佐見焼のカタログでした。独立後は山鹿灯籠の新商品開発やWeb制作、有田焼創業400年事業「2016/」のカタログ制作などに携わりました。また、2019年からは太宰府天満宮ポスターなどのデザインを手がけています。そのご縁で太宰府天満宮で開催された中村人形さん（博多人形）の展覧会の広報物やギャラリー「傀儡堂」のWebサイト制作にも関わらせていただきました。その他、中川政七商店×坂田織物さん（久留米絣）の新ブランド『Sakata』の立ち上げにも携わるなど、地域の工芸品産地との協業も増えました。



中村人形の展覧会ポスター



みさこさんがロゴやリーフレット、商品タグをデザインした坂田織物さん新ブランド「Sakata」

## Q. 山鹿灯籠の商品開発に関わられたきっかけを教えてください。

東京の「ててて見本市（現在のててて商談会）」を運営する永田宙郷さんから依頼があったのがきっかけです。当時、山鹿灯籠振興会の商品開発のプロデューサーを永田さんがされていて、声をかけていただきました。

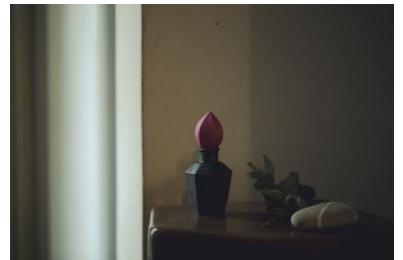
山鹿灯籠の技術を応用し、1年目はインテリアモビール、2年目はアロマディフューザーの商品開発に関わりました。



山鹿灯籠のモビールとみさこさん

商品開発にあたっては、振興会の皆さんと「ギフトにできるような商品が良いのではないか」、「原料である和紙を大量に消費する商品にしよう」、「既存の山鹿灯籠と差別化するため、動きのあるものが良いのではないか」など、意見を出し合いながら形にしてきました。

アロマディフューザー「かぐわし」に使っているオイルは佐賀のクライアント「株式会社中村」のもの、オイルポットは長崎・波佐見の西海陶器に依頼したもの用いるなど、デザインだけではなく、素材や取引先の提案も行いました。和紙の部分は新たにデザインを作るのではなく、既存の灯籠の部品がそのまま使えるような形で検討していきました。また、オイルポットの部分も既存の波佐見焼の型をそのまま試してみたところ、見事にぴったりとはまり、商品が完成しました。



アロマディフューザー『かぐわし』

## Q. 伝統工芸に関わられた実績も多いですが、もともと文化や工芸に关心があったのですか？

あまり意識していなかったのですが、今思うと小さい頃から生活の中に自然と伝統工芸が存在していた気がします。家庭の食卓には小石原焼の器が並び、両親に連れられて陶器市に行くこともありました。また、ゲームやアニメが好きだった延長上で、ものづくりや芸術への興味につながっていったように思います。



有田焼「2016/」カタログ

## Q. 伝統工芸の職人とお仕事をされる際に気を付けていることはありますか？

一緒に考えてくれる人だからとの理由でデザインの依頼をいただくことが多いです。自分のデザインを押しつけるより、相手に寄り添いながら提案することを意識しています。

## Q. 伝統工芸の職人とデザイナーが協業することの意味はどのように捉えていますか？

それぞれが異なるものづくりの技術やアイデアを持った伝統工芸の職人とデザイナーが協業することで、職人さん側は伝統的な技術の新しい使い方や見せ方を、デザイナーは自身では作れなかつたものが職人さんとの協業で可能になるなど、今までになかった新しいデザインが生まれることに期待したいです。

また、マーケティングという意味では動画のコラボ配信のように、それがインフルエンサーとしてお互いのファンを繋げることで販路を広げていくことができるという面もあると思います。

## Q. デザインのインスピレーションはどんなときに生まれますか？

日常で見かけるさまざまな色や形、質感などからインスピレーションを得ている気がします。また、ファッションや音楽などのカルチャー、部屋にも飾っているようなファンシーなキャラクターたち、仕事で関わる美術館で展示されているアートなど、基本的には出会ったもの全てから影響を受けていると思います。制作にあたっては初めはある程度遊ばせておくことが多いですが、締め切りが近づくにつれ、不思議とデザインがまとっていくことが多いです。「若者向け」など、ターゲットを意識しすぎると、逆に無難でありきたりのデザインになってしまうことがあるので、そこは注意しています。



みさこさんの作品

## Q. 生成 AI の登場についてはどのように感じていますか？

デザインは1人で完結するものではなく、クライアントや関係者との多層的なコミュニケーションの中で生まれるものです。その複雑なプロセスを生成AIが完全に再現するのは、まだまだ難しいと考えています。

## Q. デザイナーとして大切にしていること、今後の展開を教えてください。

フリーランスでデザイナーをはじめて18年目を迎えたが、暮らしの中にものづくりの活動が自然と溶け込んでいるような働き方が理想的だと思っています。無理なく、楽しく、多様な人と関わりながら刺激や知見を得て、それが新たな仕事へと循環していく。そんな持続的なサイクルができれば良いなと思っています。また、今までほとんどが国内での活動だったので、海外のクライアントとの協働や、展覧会の開催などの海外展開にも興味があります。

## Q. みさこさんから見た伝統工芸の魅力を教えてください。

現代は大型店舗やネット通販などで安価でデザイン性の高い商品が手に入る一方で、「その土地らしさ」が失われつつあると感じています。工芸品は地域文化の象徴だと思います。八女の宿「Craft Inn 手 [té]」のロゴ制作や空間デザインにも関わっていますが、工芸品等の「手仕事」をはじめとして、その土地らしさがつまつた宿となっており、とても素敵な場所です。そんな場所が今後も増えていくように、デザインを通して地域文化の魅力を発信していきたいと思っています。

Craft Inn 手 [té]

<https://craftinn.jp/>

---

事務所に入った瞬間、出迎えてくださったみさこさんの穏やかな雰囲気に癒やされました。デザイナーとして自身の価値観やデザインを押しつけることなく、クライアントに寄り添いながら伝統文化の価値を自然体かつ新しい形で発信する。その姿勢が伝統工芸の職人さんとの協働によって魅力ある作品を生み出す源になっているのではないかと感じました。

---